

瀬戸市コミュニティバスの外観デザインリニューアルについて

車両更新の概要

瀬戸市コミュニティバスの「上半田川線・片草線・岩屋堂線」、「本地線」、「下半田川線・曾野線」、「上之山線」の計7路線（4台分）の車両を更新し、外観デザインをリニューアルし、令和2年10月31日から運行を開始しました。

デザインの検討において前提とした考え方

- コミュニティバスは交通空白地域・不便地域の解消等を目的として運行しているものであり、デザインにおいては利用者にとって視認性が高く、不便を招くことのないものにする必要があります。その上で、この度検討する新ラッピングデザインに関しては、コミュニティバスを「市内全域を走る広報媒体」と捉え、一貫したコンセプトのもとにデザインを行い、目的とターゲットを絞りながらPR戦略を実施することとしました。
- 統一的なプロモーションを実施するためのツールとして策定された「瀬戸市ロゴマーク」を基調としたデザインとしました。



(瀬戸市ロゴマーク)

ターゲットについて

- ターゲット 市内及び近隣市在住者 10代～20代 女性（学生及び主婦）
- 企画意図

「かわいらしさ」を前面に出したデザインとし、SNS等での発信による話題性の獲得と、瀬戸のファンを増やすことを目的としました。

4色のカラーバリエーションを展開することを活かし、大きな水玉模様をシンプルに配置することで、カラフルさが印象に残り、「かわいい」と感じることができるデザインとしました。SNS等でバスを知るところをきっかけに、バスそのものや瀬戸市への興味につなげ、「コミュニティバスで瀬戸のいろいろな場所に行ってみよう」と、実際の訪問につなげることを目指します。

デザインのコンセプトについて

瀬戸市の魅力を伝える「瀬戸市ロゴマーク」を基調としており、それぞれの車両のベースカラーに、瀬戸の特徴を示す色を用いています。

また、ざらざらとした丸い水玉模様は瀬戸のやきもの文化の源である「土」をイメージしており、大小様々な「土」が瀬戸焼の多様性を表しています。なお、たくさんの水玉模様の中に、瀬戸焼が1つ隠されています。

かわいさとともに瀬戸市の歴史性を併せ持ち、一過性のインパクトだけではなく、市民が親しみを感じることのできるデザインとしています。

車両紹介



本地線

ベースカラー - 染付ブルー

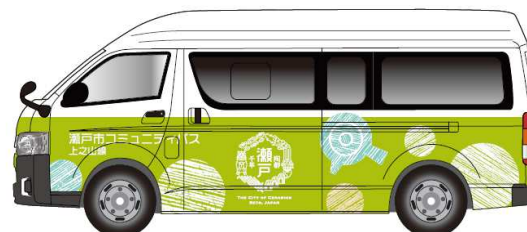
瀬戸焼 - カップ&ソーサー (ラテアート)



上半田川線 片草線 岩屋堂線

ベースカラー - 椿レッド

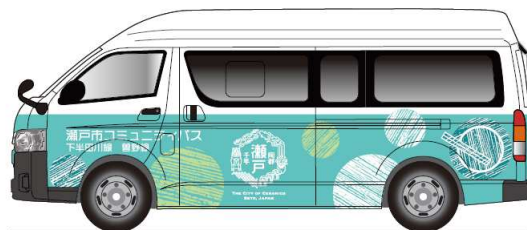
瀬戸焼 - 土鍋



上之山線

ベースカラー - 里山グリーン

瀬戸焼 - 急須



下半田川線 曾野線

ベースカラー - 清流ライトブルー

瀬戸焼 - 皿 (箸)

以上

コミュニティバス新車両展示

日時：令和2年10月6日（火）午前9時から午後5時まで

場所：瀬戸市役所本庁舎正面玄関入り口前 東側 歩道内

来場者数：181人（ブースに立ち寄ったり、展示を見学した方をカウント）

報道取材：中日新聞、グリーンシティケーブルテレビ

当日写真：

